

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

<div>産業廃棄物処理計画書</div> <div>令和7年5月19日</div> <div>(あて先) 宇都宮市長 佐藤 栄一</div> <div>提出者 住 所 宇都宮市上桑島町2100番地 氏 名 菊一生コン株式会社 代表取締役社長 菊地伸克 電話番号 028-656-6075</div> <div>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</div>	
事業場の名称	菊一生コン株式会社
事業場の所在地	宇都宮市上桑島町2100番地
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：窯業・土石製品製造業
②事業の規模	資本金 1,000万円
③従業員数	20人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	工場内で発生した残コン等、産業廃棄物はすべてマニフェストを作成し再生資源化施設に運搬し委託処分料を支払い破碎する。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙 1 のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	汚 泥
	排 出 量	6、870 t	10 t
	(これまでに実施した取組) ・発生した産業廃棄物は運搬業者及び処理業者と適正な委託契約を結び委託した場合であっても収集運搬から処分に至るまで確認し、すべての廃棄物が再生され使用される現状を確認する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	汚 泥
	排 出 量	4、000 t	10 t
	(今後実施する予定の取組) ・産業廃棄物の適正処理を確保するため関連する法令、その他規則を遵守するとともに行政の環境政策に協力する。 ・再生された再生材を率先して使用する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・当社から発生する廃棄物はコンクリートがら、汚泥である。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・再生材とし100%再利用する。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	汚 泥
	全 処 理 委 託 量	6、870 t	10 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・再資源化施設との委託契約の締結 ・産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付及び管理を行い社員に対する教育の徹底。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	汚 泥
	全 処 理 委 託 量	4、000 t	10 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現場との連絡を密に取り戻りコンの量を削減する。 ・現場にて使用する砕石は、再生材を率先して使用してもらうよう にPRし再生利用の普及に努め産業廃棄物の減量に繋げる。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

責任者及び管理組織図

廃棄物処理総責任者		代表取締役社長 菊 地 伸 克
役 割	社内規格委員会	○ 産業廃棄物に対する認識を深め、適正な処理を行なうことを目的とする。 委員長（品質管理責任者） 委員（工場長・部長・課長） 事務局（技術部長）
	廃棄物処理総責任者	○ 廃棄物処理方針の策定 ○ 廃棄物処理に関する各種事項の決定及び承認
	廃棄物管理担当	○ 廃棄物処理計画の作成 ○ 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○ 産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○ 処理業者の調査、選定及び管理 ○ 委託契約の締結 ○ 産業廃棄物管理票の交付・管理 ○ 監督省庁への各種報告 ○ その他関係する事項

廃棄物管理組織

